

中学校教科等研修講座(社会科)

教科等指導員 天王寺川中学校 教諭 粟生 桂治

担当指導主事：上野 みづほ

キーワード：自ら見つけ、考え、学ぶ喜びを育む授業

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
6月18日(木)	兵庫教育大学大学院 教授 米田 豊 氏 兵庫教育大学 大学院生 下池 克也 氏	総合教育センター 講義・実践	「昨年度の研修をふまえた指導案の改善案」 ・動的な地誌学習 ・社会科授業における板書指導
6月29日(月)	兵庫教育大学大学院 教授 勝見 健史 氏 授業者：松崎中学校 樋ノ口 陽介 教諭	松崎中学校 研究授業・事後研究	「東アジアのなかの日本（第2学年）」 ・「資料活用」と「思考」を取り入れた生徒の活動
2月12日(金)	京都ノートルダム女子 大学 講師 大西 慎也 氏 授業者：荒牧中学校 岡久 友香 教諭	荒牧中学校 研究授業・事後研究	「貿易奨励から鎖国へ（第2学年）」 ・グループワークを取り入れた生徒の活動

2 主な内容

(1) 「昨年度の研修をふまえた指導案の改善案」

まず、前年度実施した教科等研修講座で出た意見をもとに、松崎中学校の樋ノ口教諭に指導案を修正していただいた。そして、その指導案と板書の写真をもとに、兵庫教育大学大学院生の下池先生に改善案を作成していただいた。下池先生には授業の場面ごとの詳しい分析と、非常に丁寧な解説をしていただいた。昨年度1年間を通して4回に渡って実施してきた研修にもとづくものだったため、参加者からは積極的に授業改善についての質問や工夫の提案などが出ている。最後に、兵庫教育大学大学院の米田教授からも解説をしていただき、さらに理解が深まった。



(2) 「東アジアのなかの日本（第2学年）」



松崎中学校研究発表会で樋ノ口教諭が研究授業をおこなった。本授業は、しだいにまとまりはじめた日本と東アジア諸国との関係を、「朝貢」から生徒に考えさせる内容であった。生徒の活動を意識し、資料なども工夫されており、生徒が積極的に活動できた授業だった。事後研究では、良かった点や改善点などについて、ベテランから若手まで様々な意見が出た。また、教材提示の仕方の工夫についてのアイデアなども出され、非常に内容の濃い研修会となった。

(3) 「貿易奨励から鎖国へ（第2学年）」

荒牧中学校の岡久教諭が研究授業をおこなった。江戸幕府の成立期になぜ鎖国政策がとられたのかを、グループワークの手法で資料や既習事項をもとに話し合い、答えを導き出していた。生徒が自分たちで考えて様々な意見を出し、他班の説明への疑問や新たな気づきをつぶやくなど、意欲的な活動ができていた。事後研究では、指導案の流れに沿いながら授業を振り返り、活発な意見交換ができた。講師の大西先生からは、指導案の目標設定の際に重点を置かなければいけないポイントなどを中心に、図で例を示しながら非常に詳しく解説をいただいた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ① 昨年度、動態地誌について実践的な講座を開催し、主題学習の重要性を再認識し教材の選別や資料の加工などの具体的な検討を重ねていたため、参加者が共通の認識で指導案の内容を検討し、課題やその改善策について活発な議論ができた。
- ② 研究授業と事後研究には多くの参加者があり、授業について様々な意見が出たことで、授業者と参加者にとって、自分たちの授業を振り返り、授業改善につなげていく良い機会となった。

(2) 課題

- ① 市内の社会科教員全体の授業力向上や若手教員のスキルアップのために、他校の教員も交え、指導案を検討する機会を設定する必要がある。
- ② 力の差がある生徒と一緒に課題に取り組み、話し合いに参加出来るような授業の工夫のために、教材選びや資料の加工について、各校の社会科教員と定期的に意見交換を行う必要がある。
- ③ 指導案作成の際に、より具体的な授業のイメージを持って目標設定を行い、授業の仮説を立て、その検証および評価を行うことで授業改善につなげていく必要がある。